



三本桜

第13号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
6月の目標：規則正しい生活をしよう

想いの詰まった合い（愛）言葉 「スローガン」

「会社」には、必ず企業理念や経営スローガンがあるように、「学校」にも経営理念があります。それが、高取小学校の教育目標「心豊かで、たくましく、実践力のある子どもを育てる -ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子-」です。そして、この教育目標を達成するために、めざす子ども像を「夢をもち、将来を豊かにたくましく拓く子ども」として、日々の教育活動を展開しています。130年以上の歴史ある本校において、いつ考えられた言葉なのでしょう。きっと、当時の教職員でたくさんの時間をかけて考え、子どもたちや保護者・地域の方と長い間、大切にしてきた言葉なのだろうと思いを馳せています。私たちは、この言葉を大切に、目の前の子どもたちと日々、向き合っています。

また本校では、4月の年度初めに、各学年が「学年スローガン」を設定し、各学級では「学級目標」を設定します。スローガンは、「この1年、こんな毎日を過ごしたい」「子どもたちの姿がこんなふうであってほしい、こんなふうに育ってほしい」・・・といった願いや合い言葉のようなものです。各学年のスローガンを以下に掲載します。ひかりについては学級目標を掲載します。

ひかり1：すこしのがまん、たのしいこといっぱい ひかり2：ありがとう なかよし
1年：にこにこ 2年：メッセージ 3年：T3 ~3つのTをたいせつに~
4年：笑顔でつなぐ仲間とのきずな 5年：輪 6年：絆を深めてどこまでも

子どもたちがこのスローガンの下、学習、休み時間、当番活動などの具体的な場面を経験し、成長を続けていけるように引き続きサポートをしていきます。

第42回少年の主張大会

6月21日（土）、たかびあホールにて少年の主張大会が開催されました。本校からは、6年生 HSさんが発表をしました。堂々としていて、とても立派でした。以下に、その内容を掲載します。

ラーケーションを全国へ

HS

みなさんは、ラーケーションを知っていますか？ ラーケーションを使ったことはありますか？

ラーケーションは、愛知県のみで使われている制度です。平日に学校を休み、家族と校外での学習をすることを目的としています。学習（ラーニング）と、休か（バケーション）を合体させた言葉を意味します。

ラーケーションは、2023年度に始まりました。1年に3日取ることができます。

総務省によると、土・日曜日で働いているお父さんとお母さんは、約30%を示しています。少しでも子供といっしょに過ごすためにラーケーションがつけられました。

去年ぼくは、ゴールデンウィーク期間でラーケーションを利用しました。旅行に行ったり、家でご飯を作る練習をしたりしました。

旅行では、兵庫県に行き、姫路城に行きました。そこで、城のつくりや城主の着ていたよろいなどを見ました。城に登るために急な坂があってびっくりしました。昔の戦国時代の人々は、命をかけてこの城づくりをがんばっていたことや城づくりの情熱が伝わってきて、感動しました。

料理作りでは、チャーハンや焼きうどん、カレーライスも作れるようになりました。家族が料理を作ってくれる大変さを実感することができました。これをきっかけに料理が好きになり、家族が仕事でいそがしい時には、料理のお手伝いをしています。

ぼくは、仕事でいそがしい平日に家族がラーケーションで休みを取ってくれたことがとてもうれしかったです。「お城が見られてよかったね」や「写真たくさんとれたね」、「ご飯美味しかったね」と思い出に残る家族との会話がたくさん増えたとし、ふ段ではできない貴重な体験になりました。皆さんにもぼくのように家族とたくさん思い出を作ったり、ふ段ではできない家族との貴重な時間を過ごしてほしいので、全国にラーケーションを広げたいです。いつもはいそがしくてできない家族との会話やいっしょに過ごす時間が増えるなど、可能性は無敵大です。そして、もっとラーケーションを活用するためには、体験したことをノートにたくさんまとめることも大切だと思います。自分が体験したことや楽しかったことを自分の言葉で整理することで、より思い出に残すことができ、自分自身の成長にもつながると考えました。ラーケーションでできた思い出は、決して学校では体験することのできない、宝物となるでしょう。

これから、ラーケーションが広まって、より多くの人の思い出や笑顔になれる機会が増えると信じています。ぜひラーケーションを全国へ広めましょう。

異常が日常になる前に

大型化した台風「スーパー台風」の頻発や短時間強雨の増加、記録的な猛暑、さらに今年6月というのに列島各地で30度超え、梅雨前線の消滅など、私たちの暮らしを脅かす異常気象が増えており、今や必ずしも異常とはいえないほど頻繁に発生するようになっていきます。

この異常気象を抑制するためには、温室効果ガス（二酸化炭素）の排出削減が不可欠です。再生可能エネルギーの導入拡大、省エネの推進、森林保全など、国際的な協力と地域レベルでの取組が求められます。また、私たちができることは多くあり、その中には、日常生活の選択を見直すことも含まれます。家庭の電力に再生可能エネルギーを選択したり、省エネの心がけ、自転車や公共交通機関の利用、食品ロスの削減など、毎日の生活の中にもできることはたくさんあります。

高取小学校では、児童会主導のエコキャップ運動、各教科、総合的な学習の時間（4年；環境、6年；SDGs）における学習をはじめ、給食のフードロス、節水・節電など、持続可能な取組をしています。保護者の皆様におきましては、子どもたちの学びにつながる取組、地域ぐるみで実践できる取組を提案してくださると幸いです。よろしくお願いいたします。

